

令和7年度 江戸川区立鹿本小学校 人権教育年間指導計画（第1学年）

年間指導計画作成のための留意点（東京都教育委員会発行『「人権教育プログラム（学校教育編）」人権教育の年間指導計画（例）」を必ず参照の上作成すること）

- 教科等の目標や内容を踏まえ、その単元や題材全体に関わる人権教育の視点を明確にした上で、指導計画に位置付ける。
- 普遍的な視点からの取組と個別的な視点からの取組を指導計画に位置付ける。
- 各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動等における内容について、個別的な視点からの取組を中心に関連を明確にする。
- 児童・生徒が主体的に学習活動に参加し、互いに協力し合って学習に取組めるよう、協力的、参加的、体験的な学習を位置付ける。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学級経営	人権目標の目標に関わる学級目標の設定		自己受容を中心とした指導		⇕	他人の大切さを認めることを中心とした指導			互いを認めることの大切さを中心とした指導			
	児童相互の関係の把握		教師が児童の善い行いを称賛する。			児童相互で友達の善い行いを紹介し合う。						
各教科・読書科	生活：学校探検などを通して、身の回りにはいろいろな人がいることを理解させる。		国語：・物語などを読んだ感想を紹介し合う活動を通して、他者と自分の考えの違いに触れる。その中で、自分とは違う考えを受容する意識を育てる。 ・相手に応じて、身近なことなどを話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力を身に付ける。 ・進んで話したり聞いたりしようとする能力を育てる。 ・登場人物の気持ちを考えながら物語を読み、相手の気持ちを考える能力を身に付けさせる。							⇕	生活：1年間でできるようになったことを振り返り、自分の可能性に気付く、これからの生活に意欲や自信をもつ。	
	生活：アサガオを育てる活動を通して、生命を大切にすることを育てる。		生活：おもちゃ作りで作ったおもちゃでお店を開き、他学年を招待し、異学年交流を行う。			図工：友達の作品を見合い、よいところを見つけ認め合う態度を身に付けさせる。						
	体育：互いにルールを守り、協力することを通して協力、公正等の態度を身に付ける。					生活：自分の一日の生活を振り返り、できるようになったことを振り返り、自信をもてるようにするとともに、周りの人に支えられて生活できていることに気付く、感謝する。						
特別の教科 道徳	集団生活の充実 学校生活を楽しもうと思う心情を養う。	礼儀 あいさつ、言葉遣いを心掛け、明るく接しようとする心情を育てる。	友情・信頼 友達と仲良くしようとする態度を養う。	自由と責任 よいことを進んで行おうとする心情を育てる。 「インターネットによる人権侵害」	家族愛 家族を敬愛し、自分もその一員として進んで役立とうとする心情を育てる。 「北朝鮮における拉致問題」「高齢者」	親切・思いやり 人に優しい気持ちで接することが大切だという心情を養う。 「性同一性障害者・性的指向」	勤労 みんなのために働くこととする心情を養う。	親切 人に親切にすることは大切だという心情を養う。 「高齢者」「路上生活者」	善悪の判断 善悪を正しく判断しようとする心情を養う。	伝統と文化 自分の住む地域のよさを大切にしようとする心情を養う。 「外国人」	集団生活の充実 学校生活を楽しもうと思う心情を養う。	
	個性の伸長 自分の良さを知り、伸ばしていこうとする態度を育てる。											
総合的な学習の時間												
特別活動	学級目標の設定：学級の目標や自分の目標を考えさせる。		オリンピック・パラリンピックについて考えよう：オリンピックやパラリンピアン等との交流や障害者スポーツの経験等を通じて、オリンピックやパラリンピック等についての理解を深め、世界のオリンピック競技大会に向けて自分のできることを主体的に考え、行動しようとする態度を養う。「障害者」				お礼のお手紙：ボランティアさんなど、日々お世話になっている方に手紙を書き、感謝しようとする気持ちを育てる。 「高齢者」				6年生を送る会：6年生への感謝の気持ちを伝える。	
			学級会：より良い学級をつくるための話し合いなどを行う。								ありがとう給食 お世話のなった方々への感謝の気持ちをもちさせる。	
その他	保護者会等 家庭からの連絡等から児童一人一人の実態を把握する。		いじめアンケート（年3回） 児童一人一人にアンケートを取り、学級での出来事を把握する。「子供」									

「 」＝個別的な視点からの取組（末尾の「 」内は人権課題）⇕＝関連的な指導 ＝多様性を理解し、尊重し合う態度を育成することを重点とした指導。

令和7年度 江戸川区立鹿本小学校 人権教育年間指導計画（第2学年）

年間指導計画作成のための留意点（東京都教育委員会発行『「人権教育プログラム（学校教育編）」人権教育の年間指導計画（例）」を必ず参照の上作成すること）

- 教科等の目標や内容を踏まえ、その単元や題材全体に関わる人権教育の視点を明確にした上で、指導計画に位置付ける。
- 普遍的な視点からの取組と個別的な視点からの取組を指導計画に位置付ける。
- 各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動等における内容について、個別的な視点からの取組を中心に関連を明確にする。
- 児童・生徒が主体的に学習活動に参加し、互いに協力し合って学習に取り組めるよう、協力的、参加的、体験的な学習を位置付ける。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学級経営	人権目標の目標に関わる学級目標の設定		自分の大切さを認めることを中心とした指導			他の人の大切さを認めることを中心とした指導				互いの大切さを認めることを中心とした指導		
	児童相互の関係を把握する		教師が児童のよい行いを賞賛する			児童相互で友達のよい行いを紹介し合う						
各教科・ 読書科	生活：自分達の住んでいる町には、いろいろな人がいて、たくさんの人が働いていることを理解させる。		国語：登場人物の気持ちを考えながら物語を読み、相手の気持ちを考える能力を身に付けさせる。			生活：2年生が作ったおもちゃ大会に招待したり、1年生が作ったおもちゃ大会に招待してもらったりした後、遊んだ感想や感謝の気持ちを手紙に書き、互いに尊重し合う態度を養う。				国語：調べたことをまとめ、相手に伝える活動を通して分かりやすく話す能力や、相手の言いたいことをつかみながら聞く能力を身に付けさせる。		
	体育：互いにルールを守り、協力しながら運動する経験を通して、協力、公正などの態度を身に付けさせる。									図工：友達の作品を見合い、よいところを見つけ認め合う態度を身に付けさせる。		
読書指導(年間を通して指導する。：人権課題について理解を深めさせる。)												
特別の教科 道徳	礼儀 気持ちのよいあいさつに心掛けようとする態度を養う。	規則の尊重 きまりを守って生活し、集団の中で自分がどう行動すべきか考える。「インターネットによる人権侵害」	生命の尊さ 動植物にはすべて生命があることに気付き、生命を大切にしようとする心情を育てる。	節度、節制 危険を避け、周りに迷惑をかけずに安全に生活するための方法を知る。」「インターネットによる人権侵害」		友情、信頼 友達と仲よくする心情を育てる。	親切、思いやり 困っている人や弱い立場の人を思いやり、温かい心で接し、進んで親切にしようとする心情を育てる。 「女性」	親切、思いやり 幼い人をはじめ身近にいる人に温かい心をもち、相手の身になって考え、進んで親切にしようとする態度を養う。	生命の尊さ 生命のすばらしさに気付き、かけがえのない生命を大切にしようとする心情を育てる。 「子供」	感謝 日頃世話になっている人々に感謝する心情を育てる。 「高齢者」	家族愛 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いをしようとする態度を養う。 「北朝鮮による拉致問題」	国際理解 身近な他国の文化に気付き、他国の文化や人々に関心をもち、親しもうとする心情を養う。 「外国人」
	学級活動「2年生になって」：学級目標や自分の目標を考えさせる。		オリンピック・パラリンピックについて考えよう：オリンピックやパラリンピアン等との交流や障害者スポーツの経験等を通じて、オリンピックやパラリンピック等についての理解を深め、世界のオリンピック競技大会に向けて自分にできることを主体的に考え、行動しようとする態度を養う。「障害者理解」			児童会活動：ユニセフの活動に参加することを通して、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を身に付けさせる。「子供」				6年生を送る会：在校生に感謝の気持ちをもたせる。		
特別活動	1年生を迎える会：1年生を全校で温かく迎えることができるようにする。											
	保護者会等：家庭からの連絡等から児童一人一人の実態を把握する。		挨拶運動(通年)：挨拶を通して温かい人間関係の基礎を養う。			いじめアンケート(年3回) 児童一人一人にアンケートを取り、学級での出来事を把握する。「子供」						
その他												

「 」＝個別的な視点からの取組（末尾の「 」内は人権課題）
 ⇔＝関連的な指導
 ≡＝多様性を理解し、尊重し合う態度を育成することを重点とした指導。

令和7年度 江戸川区立鹿本小学校 人権教育年間指導計画（第3学年）

年間指導計画作成のための留意点（東京都教育委員会発行『『人権教育プログラム（学校教育編）』人権教育の年間指導計画（例）』を必ず参照の上作成すること）

- 教科等の目標や内容を踏まえ、その単元や題材全体に関わる人権教育の視点を明確にした上で、指導計画に位置付ける。
- 普遍的な視点からの取組と個別的な視点からの取組を指導計画に位置付ける。
- 各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動等における内容について、個別的な視点からの取組を中心に関連を明確にする。
- 児童・生徒が主体的に学習活動に参加し、互いに協力し合って学習に取り組めるよう、協力的、参加的、体験的な学習を位置付ける。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学級経営	人権目標の目標に関わる学級目標の設定		自分の大切さを認めることを中心とした指導			他の人の大切さを認めることを中心とした指導				互いの大切さを認めることを中心とした指導		
	児童相互の関係を把握する		教師が児童のよい行いを賞賛する			児童相互で友達のよい行いを紹介し合う						
各教科・読書科	理科：植物の育ちや昆虫の体のつくりを学び、動植物を大切にしようとする心情を育てる。		体育：互いにルールを守り、協力しながら運動する経験を通して、協力、公正などの態度を身に付けさせる。			国語：文章で読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く能力を身に付けさせる。		社会：江戸川区について理解を深め、郷土愛を育てる。		図工：友達の作品を見合い、よいところを見つけ認め合う態度を身に付けさせる。 「アイヌの人々」		
	読書指導(年間を通して指導する。：人権課題について理解を深めさせる。)											
特別の教科 道徳	感謝 生活を支えてくれている人々に気付く、尊敬と感謝の気持ちをもって接することができるようになる。 「高齢者」	自然愛護 自然のかけがえのないなさに気付く、自然や動植物を大切にしようとする心情を育てる。	個性の伸長 自分の特長に気付く、よいところを伸ばすことができるように心情を育てる。 「性同一性障害者・性的指向」	勤労、公共の精神 働くことの大切さを知り、すすんでみんなのために働くことができるように心情を育てる。	よりよい学校生活 楽しい学級や学校を、みんな協力し合ってつくることができるように心情を育てる。	規則の尊重 決まりを守ることの大切さを理解し、自分からきまりを守っていこうとする心情を育てる。 「インターネットによる人権侵害」	感動、畏敬の念 人の心の優しさや温かさや美しい物に、素直に感動することができるようになるように心情を育てる。	国際理解 身近にある他国の文化に親しみをもち、他国に関心をもち、心を開く。 「外国人」	家族愛 父母を敬い、家族と力を合わせて、楽しい家庭を築こうとする心情を育てる。 「高齢者」 「北朝鮮による拉致問題」	生命の尊さ 生命の尊さを感じ取り、かけがえのない生命を大切にしようとする心情を育てる。 「HIV感染症・ハンセン病感染者等」	節度、節約 できることを自ら考えて自分でやり、自立した生活を送ることができるように心情を育てる。	正直、誠実 過ちを素直に認め、正直で明るい心で生活しようとする心情を育てる。 「高齢者」
	小松菜について調べよう：江戸川の特産品にである、小松菜について調べながら育てる活動を通して、地域に愛着を持ったり、植物を育てる大変さや苦労を味わったりすることで、生命の大切に気づきながら、地域を大切にする態度を育てる。					オリンピック・パラリンピックについて考えよう：オリンピアンやパラリンピアン等との交流や障害者スポーツの経験等を通じて、オリンピックやパラリンピック等についての理解を深め、世界のオリンピック競技大会に向けて自分にできることを主体的に考え、行動しようとする態度を養う。「障害者」「外国人」				昔の学校へタイムスリップ：昔の学校や昔の道具について調べてまとめていく活動を通して、地域の歴史と地域の未来について考えられるようにする。 「高齢者」		
総合的な学習の時間												
特別活動	学級活動「3年生になつて」：学級目標や自分の目標を考えさせる					児童会活動：ユニセフの活動に参加することを通して、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を身に付けさせる。「子供」				6年生を送る会：在校生に感謝の気持ちをもち、元気づける。		
	1年生を迎える会：1年生を全校で温かく迎えることができるようにする。											
その他	保護者会等：家庭からの連絡等から児童一人一人の実態を把握する。		挨拶運動(通年)：挨拶を通して温かい人間関係の基礎を養う。			外国語活動：外国語活動を通じて、外国の言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。「外国人」		自分のいいところを知ろう：自分のよさや相手のよさを知ったり、認め合ったりする。				

「 」＝個別的な視点からの取組（末尾の「 」内は人権課題） $\longleftrightarrow$ ＝関連的な指導 ＝多様性を理解し、尊重し合う態度を育成することを重点とした指導。

令和7年度 江戸川区立鹿本小学校 人権教育年間指導計画（第4学年）

年間指導計画作成のための留意点（東京都教育委員会発行『「人権教育プログラム（学校教育編）」人権教育の年間指導計画（例）」を必ず参照の上作成すること）

- 教科等の目標や内容を踏まえ、その単元や題材全体に関わる人権教育の視点を明確にした上で、指導計画に位置付ける。
- 普遍的な視点からの取組と個別的な視点からの取組を指導計画に位置付ける。
- 各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動等における内容について、個別的な視点からの取組を中心に関連を明確にする。
- 児童・生徒が主体的に学習活動に参加し、互いに協力し合って学習に取り組めるよう、協力的、参加的、体験的な学習を位置付ける。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学級経営	児童相互の関係を把握する		自分の大切さを認めることを中心とした指導			他の人の大切さを認めることを中心とした指導				互いの大切さを認めることを中心とした指導			
	人権目標の目標に関わる学級目標の設定					児童相互で友達のよい行いを見つけ、紹介し合う							
各教科・ 読書科	理科<季節と生き物>(通年)：一年間同じ植物を調べることで、生物の様子の変化を感じ取り、生命を大切にしようという心情を育てる。		体育<各ゲーム運動>(通年)：互いにルールを守り、協力しながら運動する経験を通して、協力、公正などの態度を身に付けさせる。			社会<わたしたちの東京都>：東京都の様々な地域について学習し、郷土愛を深めるとともに、他の地域や外国とのかわりについて理解し、自分たちにどのようなことができるか主体的に考えさせる。				国語<便利ということ>：ユニバーサルデザインについて学び、自分が考えたことを発表するとともに、一人一人の感じ方について違いのあることに気付く能力を身に付けさせる。 「子供」「高齢者」「障害者」			
	読書指導(年間を通して指導する。：人権課題について理解を深めさせる。)												
特別の教科 道徳	親切、思いやり困っている人には、相手のことを考えて、親切にしようとする心情を育てる。	個性の伸長 自分の特長に気付く、よいところを伸ばすことができるように心情を育てる。 「障害者」	感動、畏敬の念 人の心の優しさや温かさや美しい物に、素直に感動することができるように心情を育てる。	節度、節制 できることを自ら考えて自分でやり、自立した生活を送ることができるように心情を育てる。		礼儀 礼儀の大切さを知り、だれに対しても真心をもって接しようとする態度を養う	感謝 日ごろ世話になっている人々に、尊敬と感謝の気持ちをもって接しようとする心情を育てる。 「高齢者」	家族愛 父母を敬い、家族と力を合わせて、楽しい家庭を築こうとする心情を育てる。 「北朝鮮による拉致問題」	勤労、公共の精神 働くことの大切さを知り、すすんでみんなのために働くことができるように心情を育てる。	国際理解 身近にある他国の文化に親しみをもち、他国に関心をもち、心を開く。 「外国人」	郷土愛 自分が暮らす地域の伝統と文化を大切にしようとする心情を育てる。	生命の尊さ 生命の尊さを感じ取り、かけがえない生命を大切にしようとする心情を育てる。 「高齢者」	
総合的な学習の時間	<特別支援学校の子と仲良くなろう>：近隣の鹿本学園の児童と交流を行い、障害をもつ人やその関係者に関わる経験と、そのために必要な姿勢を育てる。 「障害者」		オリンピック・パラリンピックについて考えよう：オリンピックやパラリンピック等との交流を通じて、オリンピックやパラリンピック等についての理解を深め、世界のオリンピック競技大会に向けて自分ができることを主体的に考え、行動しようとする態度を養う。「障害者」			<特別支援学校の子と仲良くなろう>：近隣の鹿本学園の児童と交流を行い、障害をもつ人やその関係者に関わる経験と、そのために必要な姿勢を育てる。 「障害者」				<外国の人と仲良くなろう>：外国に住む人の暮らしや様子について調べ、日本との違いについて理解する。同時に世界のオリンピック競技大会に向け、世界の人々に関わる際に自分ができることを主体的に考え、行動しようとする態度を養う。 「外国人」			
特別活動	1年生を迎える会：1年生を全校で温かく迎えることができるようにする。									児童会活動：ユニセフの活動に参加することを通して、協力して諸問題を解決しようとする自主的、実践的な態度を身に付けさせる。「子供」		6年生を送る会：在校生に感謝の気持ちをもたせる。	
その他	保護者会等：家庭からの連絡等から児童一人一人の実態を把握する。		挨拶運動(通年)：挨拶を通して温かい人間関係の基礎を養う。			外国語活動(通年)：外国語活動を通じて、外国の言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。「外国人」							

「 」＝個別的な視点からの取組（末尾の「 」内は人権課題） $\longleftrightarrow$ ＝関連的な指導 ＝多様性を理解し、尊重し合う態度を育成することを重点とした指導。

令和7年度 江戸川区立鹿本小学校 人権教育年間指導計画（第5学年）

年間指導計画作成のための留意点（東京都教育委員会発行『「人権教育プログラム（学校教育編）」人権教育の年間指導計画（例）」を必ず参照の上作成すること）

- 教科等の目標や内容を踏まえ、その単元や題材全体に関わる人権教育の視点を明確にした上で、指導計画に位置付ける。
- 普遍的な視点からの取組と個別的な視点からの取組を指導計画に位置付ける。
- 各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動等における内容について、個別的な視点からの取組を中心に関連を明確にする。
- 児童・生徒が主体的に学習活動に参加し、互いに協力し合って学習に取り組めるよう、協力的、参加的、体験的な学習を位置付ける。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学級経営	人権目標の目標に関わる学級目標の設定		自己受容を中心とした指導			他人の大切さを認めることを中心とした指導			互いを認めることの大切さを中心とした指導			
	児童相互の関係の把握		教師が児童の善い行いを称賛する。			児童相互で友達の善い行いを紹介し合う						
各教科・ 読書科	家庭：家族の一員として生活をより良くしようと実践する態度を身に付けさせる。「女性」「子供」「高齢者」		国語：調べたことをもとに討論することを通して、的確に話す能力や相手の意図を掴みながら聞く能力を身に付けさせる。			社会：社会的な事象の意味について考える力、調べたことを表現する力を身に付けさせる。「災害に伴う人権侵害」						
			理科：生命のつながりを調べ、生命を尊重しようとする態度を身に付けさせる。			社会：我が国の国土の環境に関心を深め、国土に対する愛情を育てる。「外国人」			体育：心の健康・けがの防止や病気の予防について理解し、健康で安全な生活を営む能力を身に付けさせる。「HIV感染者・ハンセン病患者等」			
	体育：互いにルールを守り、協力することを通して協力、公正等の態度を身に付ける。					算数：伴って変わる2量の関係の考察を通して比例や反比例の関係について理解し、筋道を立てて考える力を伸ばす。						
特別の教科 道徳	自由と責任 自律的であつて責任を養う。	個性の伸長 自分の長さを伸ばす。	友情・信頼 互いに気遣い合う。	親切 誰かのために心を尽くす。		愛国心 我が国を愛する。	国際理解 外国文化を尊重し、国際社会で暮らす。	公正・公平 誰に対しても公平に接する。	生命の尊さ 生命の大切さを理解し、尊重する。	真理の探究 真実を求め、善い行いをすすめる。	相互理解 お互いの違いを受け入れ、理解し合う。	国際理解 外国文化を尊重し、国際社会で暮らす。
総合的な学習の時間	環境に目を向ける：生き物と環境との関係を調べ、生命を尊重しようとする態度を身に付けさせる。					国際人を目指して（オリ・パラ）：オリンピックやパラリンピックとの交流や障害者スポーツの体験等を通してオリ・パラについての理解を深め世界のオリンピック・パラリンピックに向けて自分ができることを主体的に考え、行動しようとする態度を養う。「障害者」「外国人」			卒業に向けて：卒業に向けての取り組みを通して、協力して諸問題を解決しようとする、自主的、実践的な態度を身に付けさせる。			

特別活動	学級活動 「目標を立てよう」 学級目標や自分の目標を考えさせる。		交通安全教室 他の生命を尊重して、 自分も安全な生活態度を育成する。		学級活動 「いじめのない学級を作ろう」 いじめをしない、させない、見て見ぬふりをしない実践力の基礎を養う。		セーフティ教室 正しく安全なインターネット 使い方について考え、実践しようとする態度を育む。		6年生を送る会 6年生に感謝の気持ちをもたせる。			
							人権週間 人権について考え、標語作りを通して実践しようとする態度を育成する。		ありがとう給食 お世話のなった方々への感謝の気持ちをもたせる。「高齢者」			
その他	保護者会等 家庭等から児童一人一人の実態を把握する。		外国語活動：外国の言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。（通年）「外国人」								校章旗掲揚 6年生から伝統を引き継ぐ。	
							道徳授業地区公開講座		生活リズム向上公開授業			
								人権運動に向けての取り組み 「いじめ防止」をテーマにした人権標語などの作成を通して、いじめのない学校づくりに向けての意欲を高める。				

「」=個別的な視点からの取組（末尾の「」内は人権課題）

↔

=関連的な指導

=多様性を理解し、尊重し合う態度を育成することを重点とした指導。

令和7年度 江戸川区立鹿本小学校 人権教育年間指導計画（第6学年）

年間指導計画作成のための留意点（東京都教育委員会発行『『人権教育プログラム（学校教育編）』人権教育の年間指導計画（例）』を必ず参照の上作成すること）

- 教科等の目標や内容を踏まえ、その単元や題材全体に関わる人権教育の視点を明確にした上で、指導計画に位置付ける。
- 普遍的な視点からの取組と個別的な視点からの取組を指導計画に位置付ける。
- 各教科、特別の教科 道徳、総合的な学習の時間、特別活動等における内容について、個別的な視点からの取組を中心に関連を明確にする。
- 児童・生徒が主体的に学習活動に参加し、互いに協力し合って学習に取り組めるよう、協力的、参加的、体験的な学習を位置付ける。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
学級経営	人権目標の目標に関わる学級目標の設定		自己受容を中心とした指導			他人の大切さを認めることを中心とした指導				互いを認めることの大切さを中心とした指導			
	児童相互の関係の把握		教師が児童の善い行いを称賛する。			児童相互で友達の善い行いを紹介し合う							
各教科・ 読書科	国語：調べたことをもとに討論することを通して、的確に話す能力や相手の意図を掴みながら聞く能力を身に付けさせる。					社会：「解放令」発令以降も差別は残り、開放を求める運動が各地で起こったことを理解させる。「同和問題」		社会：民主主義への意識が高まる中で、女性の権利と地位の向上を目指す運動がすすめられたり、水平社が結成されたりしたことを理解させる。「女性」「同和問題」				理科：生物と環境との関係を調べ、生命を尊重しようとする態度を身に付けさせる。	
	家庭：家族の一員として生活をより良くしようと実践する態度を身に付けさせる。「女性」「子供」「高齢者」		理科：生きていくための体のしくみを調べ、生命を尊重しようとする態度を身に付けさせる。					体育：病気の予防に対する知識を身に付けることを通して、エイズ患者らに対する偏見や差別とその解消のための取り組みについて理解させる。「H1V感染者・ハンセン病患者等」					
	社会：外国の人々の文化や習慣の違いについて理解を深めさせる。「外国人」		社会：江戸時代、身分差別があったことを理解させる。「アイヌの人々」					算数：伴って変わる2量の関係の考察を通して比例や反比例の関係について理解し、筋道を立てて考える力を伸ばす。					
			体育：互いにルールを守り、協力することを通して協力、公正等の態度を身に付ける。										
特別の教科 道徳	希望と勇気 希望や勇気をもつことの大切さをしり、困難にくじけず取り組もうとする心情を養う。	友情・信頼 互いの良さに気づき、学び合いながら友情を深めようとする心情を育てる。	親切 誰に対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にしようとする心情を育てる。「路上生活者」	安全・防災 自分の生活を見直し、節度を守り節制に心掛ける心情を養う。「災害に伴う人権問題」		伝統文化の継承 我が国の伝統と文化を大切に。国を愛そうとする心情を育てる。「外国人」	よりよく生きる喜び よりよく生きようとする心情を育てる。「同和問題」	生命の尊さ 命を大切にしようとする心情を育てる。「ハラスメント」	礼儀 相手を大切に思う気持ちに気づき、真心をもって人と接しようとする心情を育てる。	善悪の判断 責任をもって行動しようとする実践意欲と態度を養う。「インターネットによる人権侵害」	国際理解 世界の様子や外国の人々に関心をもち、国際親善に努めようとする心情を育てる。「外国人」	真理の探究 真理を探究しようとする実践意欲と態度を育てる。「H1V感染者・ハンセン病患者等」	
総合的な 学習の時間	国際人を目指して(オリ・パラ)：オリンピックやパラリンピアンとの交流や障害者スポーツの体験等を通してオリ・パラについての理解を深め、世界のオリンピック・パラリンピックに向けて自分にできることを主体的に考え、行動しようとする態度を養う。「障害者」「外国人」					夢に向かって今できること：自己を見つめ、自分の良さを認めたり、自分の可能性について考えたりすることを通し、より良い自己実現のために、自分にできることを主体的に考え、行動しようとする態度を養う。				卒業に向けて：卒業に向けての取り組みを通して、協力して諸問題を解決しようとする、自主的、実践的な態度を身に付けさせる。			

特別活動	学級活動 「目標を立てよう」 学級目標や自分の目標を考えさせる。		交通安全教室 自他の生命を尊重し 誰もが安心して生活するためのより良い態度を育成する。		学級活動 「いじめのない学級を作ろう」 いじめをしない、させない、見て見ぬふりをしない実践力の基礎を養う。		セーフティ教室 正しく安全なインターネット雄使い方について考え、実践しようとする態度を育む。		6年生を送る会 在校生に感謝の気持ちをもたせる。			
							人権週間 人権について考え、標語作りを通して実践しようとする態度を育成する。		卒業を祝う会 お世話のなった方々への感謝の気持ちをもたせる。			
その他	保護者会等 家庭からの連絡等から児童一人一人の実態を把握する。		外国語活動：外国の言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。（通年）「外国人」								挨拶運動 挨拶を通してあたたかい人間関係の基礎を養う。	
			国際人を目指して（オリ・パラ）：オリンピックやパラリンピアンとの交流や障害者スポーツの体験等を通してオリ・パラについての理解を深め、主体的に考え、行動しようとする態度を養う。			人権運動に向けての取り組み 「いじめ防止」をテーマにした人権標語などの作成を通して、いじめのない学校づくりに向けての意欲を高める。						

「 」＝個別的な視点からの取組（末尾の「 」内は人権課題） $\longleftrightarrow$ ＝関連的な指導 ＝多様性を理解し、尊重し合う態度を育成することを重点とした指導。